
情報番号：教育技法—16

テーマ：フィッシュボール

編著者：IBEX-T

1. フィッシュボールとは

フィッシュボールは、コミュニケーション研修や組織開発（OD）の中で活用される技法で、別名金魚鉢会議とも呼ぶ。字のごとく、中の金魚（討議する人）を外でながめ（観察する人）、討議の進め方、メンバーの参画の仕方、対人関係などを観察して、集団のメカニズムやチーム活性化に必要な要因を理解したり、会議場面におけるコミュニケーションの技術を習得していく技法をいう。

この技法のよさは、討議者と観察者が観察した状況を、お互いに率直にフィードバックしあい、討議上の問題点を明らかにしていくところにある。討議のプロセスや決定の仕方、葛藤の処理などを違った見方で批判・検討できるだけでなく、参加者自ら反省する機会がもてるところにも特色がある。また話し方や聞き方のコミュニケーション技術を高める効果も期待できる。

コミュニケーション研修の中に組み込まれることが多いが、組織開発（OD）の研修の中に組み込まれることもある。

OD 技法の中に POPOPO（P：Participant、O：Observer）や Groups or Groups という技法があるが、フィッシュボールと同類の技法にあたる。